

1 地域とともにある学校づくり

- (1) コミュニティ・スクールディレクター (CSD)、コミュニティ・スクールコーディネーター (CSC) について

磐田市においては、平成25年度に4校を指定しコミュニティ・スクール(学校運営協議会)をいち早く導入し地域住民や保護者と学校の連携強化を進めて来ています。平成27年度には全小中学校32校を指定し平成30年度には全小中学校で実施されました。連携強化の推進のために大きな存在がCSD、CSC(地域学校協働活動推進委員)です。学校と地域とのパイプ役となりキャリア教育のひとつでもある中学生の職場体験の受け入れ先との連絡調整や学校支援ボランティア・学習支援ボランティアのコーディネートなど、教職員の仕事の軽減にも大変大きな役割を果たしております。地域とともにある学校づくりを推進していくにあたりCSD、CSCの更なる充実が必要だと感じ以下質問いたします。

- ① CSD、CSCのそれぞれの仕事の違い、責任範囲の違いを伺います。
- ② CSD、CSCの理想とする配置や運営体制を伺います。また現在の運営体制を伺います。
- ③ 学府によってはCSD、CSCのそれぞれの募集に苦勞していると聞いていますが課題は何か伺います。
- ④ CSCの育成、目標・ビジョンを共有するための研修等が必要に思われますが実施状況を伺います。
- ⑤ 年間800～1000時間を担い、かつ複数の学府を担当する方もいますが、勤務体制の見直しや処遇改善への考えを伺います。

- (2) 中学校部活動と地域スポーツ団体・文化活動団体との連携

スポーツ庁は、教員の負担軽減と地域スポーツの活性化を目的に2023年度以降に段階的に休日の中学運動部活動の主体を学校から地域へ移し地域部活動としていくための準備に入っています。すでに磐田市では中学部活動への外部指導者制度が取り入れられており専門外を受け持

つ顧問にとっては時間的、精神的にも大きな負担軽減に繋がっています。
そこで以下質問致します。

- ① 教員の働き方改革と学校部活動の考え方を伺います。
- ② 外部指導者の確保や連携への課題を伺います。
- ③ 新たな部活動の持続可能な運営体制を整えるために磐田市の特質を生かしクラブチーム・大学・各協会・スポーツ少年団などと連携していく考えを伺います。
- ④ 小中一体校での地域と連携した小中一体部活動への考えを伺います。
- ⑤ 中体連・文化系コンクールへの参加の見直しと考えを伺います。
- ⑥ 今後、少子化が進む中での部活動の方向性を伺います。
- ⑦ 今後、地域部活動推進に向けて、どのように調査・研究していくかを伺います。

(3) 「磐田スポーツ部活」について

磐田市では平成28年度に「磐田スポーツ部活」を設置し、磐田市体育協会（現磐田市スポーツ協会）、ヤマハ発動機ラグビースクールの協力のもとで、陸上競技部・ラグビー部の活動を始めました。2022年1月から日本ラグビー協会の新リーグ開幕に向けてヤマハ発動機ジュビロの体制も変わると聞いていますが以下質問致します。

- ① ヤマハ発動機ジュビロの新体制による「磐田スポーツ部活」への予想される影響と課題を伺います。
- ② 中学校進学に向けての説明会が11月から始まる予定ですが保護者への周知の考えを伺います。
- ③ 今後の「磐田スポーツ部活」としての方向性と考え方を伺います。